

学校運営協議会（第2回）議事録

| | |
|-----|------------|
| 校名 | 府立泉北高等支援学校 |
| 校長名 | 池田 かおり |

| | |
|---------|--|
| 開催日時 | 令和5年11月17日（金）15：30～17：00 |
| 開催場所 | 大阪府立泉北高等支援学校 集会室 |
| 出席者（委員） | 中島 康明（会長） 早川 泰史（副会長） 魚住 敦子（委員） 樋上 一真（委員） 徳 和則（委員） 高本 真理子（委員） |
| 出席者（学校） | 池田 かおり（校長） 前田 優（教頭） 百田 千代（首席） 米田 拓朗（首席） 上野 浩嗣（教務部長） 河上 万樹子（進路指導部長） 緒方 美香（研究研修部長・指導教諭） 河村 真司（生徒指導部長） 伊東 みずき（環境保健部長） 境 翔太（情報文化部長） 奥田 芳郎（1年学年主任） 井本 真（2年学年主任） 升元 康雄（3年学年主任） |
| 傍聴者 | なし |
| 協議資料 | 委員会名簿 次第 令和5年度採択教科書一覧表 令和5年度学校経営計画及び学校評価（進捗） 学校自己診断票（生徒用、保護者用、教職員用） |
| 備考 | |

| |
|--|
| 議題等（次第順） |
| <p>(1) 諸連絡（配付物の確認、次第の確認、傍聴者の確認、意見箱について）</p> <p>(2) 学校長挨拶</p> <p>(3) 会長挨拶</p> <p>(4) 今年度の学校経営計画重点（進捗）について</p> <p>(5) 生徒の活動の様子について</p> <p>(6) 今年度の学校教育自己診断（案）について</p> <p>(7) 協議及びまとめ</p> <p>(8) 今後の予定</p> |
| 協議内容・承認事項（説明・意見の概要） |
| <p>(1) 諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配付物の確認 ※協議資料参考 ・ 次第の確認 ※次第順通り ・ 傍聴者の確認 →傍聴者なし ・ 意見箱について →投書なし <p>(2) 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> →生徒の変容と活躍の好評、教育課程の見直しについて |

(3) 会長挨拶

(4) 今年度の学校経営計画重点（進捗）について

→資料「令和5年度学校経営計画及び学校評価(進捗)」を基に、学校長より説明。

(5) 生徒の活動の様子について

→各学年主任より、レクリエーション(1年)、校外学習、実習(校内・企業)、生徒会選挙、宿泊学習(2年)、修学旅行(3年)での活動の様子を報告。

(6) 今年度の学校教育自己診断（案）について

→教頭より学校自己診断票〔生徒用、保護者用、教職員用〕(案)を提示し、内容を説明。

○意見交換

・ひらがな表記などあるが、字が小さい上に使用している漢字にはルビが打たれていない点について、視覚に不安がある子どもや漢字が読めない生徒に配慮が必要ではないか。

→ご意見を受けて、内容の精査を行う。

・項目を見ると主語が明確となっておらず、組織に対する評価なのか自分自身の評価なのかがわかりづらい。「私は知っている」というふうに自己評価にするのか、「私の視点から学校はできている」というふうに評価するのか、明らかにするべきではないか。

→他校でもそのような表記になっているところがあり、ちょうど企画調整会議でも話していたところである。ご意見を受けて、内容の精査を行う。

・どのような目的をもって自己診断を行うのか、保護者にその旨が伝わっているのか。

→目的は現状把握と今後の学校運営のために活用すること。鑑文をつけて明記する。

(7) 協議及びまとめ

・「令和5年度学校経営計画及び学校評価(進捗)」にある、授業力向上の取組みはどのような形で行ったか。また変化が見られたポイントは何か。

→ICTカフェのような垣根のないICT相談会を定期的に行い、教員がICT機器に触れて扱う機会を増やしたこと。研究支援部が主導した公開授業では、本校の授業づくりアンケートを基に、他の教員の授業を見学し、「よかった点」や「こうすればもっとよくなる点」など、気づきを明らかにした上で共有化したこと。こうすることで授業の工夫のポイント、明確になりそれぞれの教員の授業力向上につながっていると考える。

・ワークライフバランスには、「今日しないといけないことはして明日できることは後にして帰る」といったことなどあるが。

→水曜日には定時退勤が定着し、会議に関しては今後精選を行っていく。

・12月の府庁実習や桃山学院大学での連携事業はどのような内容か。

→府庁実習：府庁内での障がい者雇用の方がどのような仕事をしているのか、実際に同じ作業を行う。

桃山学院教育大学：実習の授業において、大学内でできる作業を学生と共に行う。

・学校教育自己診断票にある「いじめ」について、言葉による意思表示が難しい生徒の場合どう判断すればいいのか。

→SNS上でも、なかなか気づけない事象がある。普段から生徒の変化をしっかりとらえていくことが大事である。学校においては教員が丁寧に把握し、情報共有をこまめに行い、積み重ねていくことが変化の気づきにつながると考える。

(8) 連絡事項

・次回の学校運営協議会について